

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600576		
法人名	社会福祉法人栄幸会		
事業所名	きたうえファミリーアネックス		
所在地	静岡県三島市徳倉1148番地2		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年3月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑の中の特別養護老人ホームの敷地内に併設されており、他部署との連携もできており社会福祉法人としてきめ細かい安心できる支援が行えます。  
入居者様と、寄り添う事を大切に「生きる喜び」を引き出し、心のこもった支援がお1人ひとりに行えるようにスタッフは寄り添う時間を大切にしています。管理者は看護師としても毎日の体調管理に努め元気で穏やかに暮らせるような支援を行っています。  
入居者様はスタッフのギターに合わせ歌う事が大好きでその歌声はホーム全体に響き渡り、美しいハーモニーとなりスタッフを心地よい気持ちにさせてくれる、ぬくもりが感じられるホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者からフレンドリーに迎えられ自然に仲間に入ることが出来た当日、慣れた様子でゴミ袋を折り、祭りのポスターを作る中にも歌あり、利用者同士の心温まるやり取りありで思いがけない感動があった。管理者が看護師であり、医師や家族との連携により早期発見・早期治療に繋がっていることや職員の入れ替えが少ないことは家族に安心をもたらしている。今一番重視している「寄り添い」は、寄り添うことで利用者のいる時代に職員も共に戻るとの支援であり、その時間の確保のために職員会議でアイデアを出し合い運営推進会議において意見を伺って現在取り組みが進められており、まさに法人や事業所の理念「尊重」の実践を見ることができた。法人のバックアップも活用し今後も利用者の穏やかな日々を支えて行きたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お1人ひとりの人格を尊重した介護をさせて戴きます」という事業所の理念をフロアの掲げ、日々の入居者様との関わりの中で職員全員が確認しあいながら支援に努めている。	法人理念にある基本的人権の尊重は事業所理念にも共通しており、法人全体の毎朝礼で確認した理念は事業所の申し送りの際に当日勤務者で再確認し、敬う気持ちを籠めた介護支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や近隣のスーパーへ出かけ、声をかけたり掛けられたり少しずつであるが地域交流に努めている。	め地域住民との密な交流は望めないが、事業所の行事には声を掛け、また散歩時に挨拶を交わしている。習字や舞踊等ボランティアの来訪や中学生の職場体験の受け入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症を支える家族会の会員とし定期的に会に参加し、地域の方々の認知症への理解の普及に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し、会議では率直な意見や助言を頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センター、民生委員、利用者、家族が参加し定期的に開催されている。状況報告を軸に当面の問題を話し合い、出されたアドバイスは次の行動への良き弾みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のグループホーム研修会に担当者を交えて話したり、今年度は市役所内にホームの紹介を掲示させて頂きサービスの取組みを伝えている。	市内グループホーム連絡会で行われる勉強会や事例の検討会はサービスの向上に活かしている。また市役所に配布用パンフレットを置いたり利用者の作品掲示をしてもらい市民への啓蒙を協働している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の宣言を行っている。玄関前は急坂で車の往来が激しく、ご家族の意向により鍵をかけているが、希望があれば随時開け自由な外出ができるように支援している。	スピーチロックを含め身体拘束の弊害を職員はよく理解しており拘束は無い。玄関は施錠されているが利用者が施錠されていることを意識しないよう鍵を付け替えるなど配慮している。	安全のための施錠もやむを得ないが職員間で話し合いもされている由、時間帯による解錠等取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護ストレスを無くすためには認知症への理解を深める事も大切であることから勉強会を開催している。スタッフは互いに声をかけ不適切な言葉、態度のない心のこもった支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ入居者様で活用している方はいないが管理者は地域権利擁護事業や成年後見制度を理解している。今後全スタッフが制度への理解を周知するよう学ぶ機会を作っていきたいと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問には誠意を持って答えさせて頂き、利用者様・家族が十分にご納得できるように気を配っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見欄を設け、入居者や家族からの意見や希望の声が、管理者や・スタッフに直接伝えられ、これによる意見が今後の支援に反映されるよう努めている。	年2回の家族会は殆どの家族が参加しており意見交換の場となっている。職員個々について知りたいとの意見はホーム便りに自己紹介を掲載し、外出への要望には周辺の散歩を日課とするなど速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議では事前に話し合いの内容を提示し、活発な意見交換が行えるように努め、意見や提案は介護報告として提出している。	介護課題や目標を自己申告するシステムがあり、当該研修には受講を優先している。また勉強会後のアンケートには管理者がフィードバックして疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、自己申告書としてスタッフ個々の介護課題・目標を理解しており、向上心を持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は積極的に受講でき、スキルアップを推進している。しかし職員1人ひとりのレベルの把握はできておらず今後初任・中堅・管理者等能力別に必要な研修の充実を図って行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と研修会を行い情報交換や事例検討を行い今後のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には事前訪問、もしくは事前にホームに来ていただき、ご本人の望む事・不安などをゆっくりと伺い受け止め、安心と信頼を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には事前訪問もしくは事前にホームに来ていただき施設の理念を伝え、ご家族の望む事、不安などをお話しながらしっかりと受けとめ信頼感の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前には担当者会議を開催し、ご家族や本人の意向をくみ取りその時に何が必要であるかをしっかりと見極め必要なサービスが適切に導入できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持つ事で共に暮らす家族の一員としての自覚を持って頂けるように、お1人ひとりに沿った役割を沢山見つける事が出来るよう日々寄り添いながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えるのは、ご家族のあたたかい支援が必要であり、スタッフはそんなご家族と一緒に共に歩むことを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスからの継続入居の方が多くなってきたのでデイサービスとの合同行事やレクリエーションを行い今までの馴染みの継続に努めている。	ホームの行事には家族が利用者の趣味の仲間を伴って参加したり、所縁の人の墓参に行ったりと家族と連携して関係が継続できるよう支援している。皆で取り組んだ年賀状も好評であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、認知レベルを配慮して入居者間の関係理解に努め、共にここでの暮らしを楽しむように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方であっても、在宅生活を送る上で必要なサービスの情報は積極的に提示し家族・ご本人が安心して地域で暮らせるように積極的に相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や日々の入居者様と家族との関わりから「その方らしさを知り」その方の希望や意向をくみ取るように努めている。	利用者個々の意向は把握しているが、ブレインストーミング手法を用いて更に理解を深めるよう努めている。本人・家族が出来ないと思い込んでいることが実は出来ることを発見、利用者の張り合いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、その方の馴染みの暮らし生活環境等の把握を行っている。サービスに対しては毎月担当はモニタリングを実施して達成状況を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お1人ひとりに寄り添う時間を作り、ご本人のできる力、希望する事を引き出すようにスタッフは気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時には、ご家族に状況報告を行うと同時にケア内容の確認を行い。毎月の会議ではケースカンファレンスを行い状況に沿った適切な介護が提供できる様に努めている。	ルールに則った細やかな申し送りで利用者の状態は全職員が共有し、毎月のカンファレンスで意見を出し合っている。担当者会議では家族を交えて話し合い現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録はフォーカスチャータリング方式にてしっかり記録され、介護支援計画に沿ったケアをスタッフ1人ひとりが理解しながら実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・ご本人の、その時々希望や意向に寄り添いホームでの暮らしが窮屈とならないように柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の力を借り、書道クラブお茶・舞踊・歌などの楽しい時を過ごせるように支援している。中学生の職場体験なども受け入れ相互に協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医以外の受診も勧めており、診察に必要な情報は看護師が同行し、書面や電話で連絡しており、状態に合った適切な医療が受けられるよう努めている。	入居時に従来からのかかりつけ医または嘱託医受診の希望を本人・家族から聞いている。日常から個々の体調を的確に把握できるよう努め、受診には看護師が同行し具体的な情報提供により適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身状態に変化があれば介護職は管理者である看護師に随時報告・相談を行い、適切な看護が受けられるように早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が付き添い正確な状態報告を医療関係者に伝え、適切な医療が受けられるよう支援し、早期にホームにもどられるよう医療機関との連携も積極的に図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には終末期に関する意識調査を提示し、ご家族・本人の意向の確認を行い、終末時ケアを希望される方においては嘱託医と連携し最善の支援ができるような取組を行っている。	重度化や終末期に関する確認書を毎年取り交わし、状態による本人・家族の意向の変化に配慮しており、入院のタイミング等良く話し合っている。マニュアルも作成され職員の考えも前向きである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは救命法を学び、急変時対応マニュアルに沿った訓練を不定期であるが行っており実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員のスタッフが中心となり定期的に防災訓練が行われ、マニュアルも整備されている。敷地内にある老人福祉施設からの協力もお願いしている。	災害に備え水や食糧など備蓄され、スプリンクラー設置も予定されている。夜間や様々な場合を想定した訓練や起震車の体験、また乾燥機のフィルターや台所ガス周りのこまめな点検等多方面からの取り組みが見られた。	今後は近隣住民へ協力要請し、災害時の応援体制を更に確固たるものにしていく事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である、お一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを実践し、不適切な言葉にならない様スタッフは互いに注意しあうように努めている。	個々のファイルや書類は事務所に保管されている。プライバシーを損ねない関係も実践されている。利用者の明るい笑顔から、職員が利用者の人格を尊重したケアを提供していることが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の希望を伝えて頂く事が自然に出来るように日々の支援では声掛けを工夫し、難しくなった方にも寄り添い、好みに少しでも近づける様な支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事の声掛けは行うが入居者様のその日、時々のペースや体調にあわせながらのご本人の意思を尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族やご本人の希望を伺い、その方らしい服装や髪型で日々過ごす事が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事の準備、後片付けまで個々のレベルに応じた支援をスタッフと一緒にしている。献立は施設の畑で採れた野菜や季節のものを使ったりしておいしく食べる工夫をしている。	入居時に嗜好調査がされ好みに配慮した食事が提供されている。豆の筋とりや茸の株分け、片付け等利用者は持てる力を発揮している。家族会では家族と共に調理や食事を楽しみ、また外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間は概ね決まっているが無理な声掛けはせず1人ひとりの習慣やその時の状態、気分に沿うよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりに沿った口腔ケアは毎食後実施し、必要時には家族の希望を伺い訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、1人ひとりの排泄パターンを把握し、できる能力を引き出し、トイレでの排泄支援に努めている。	個々の排泄パターンはチェック表にて把握され、トイレで排泄する習慣を大切にしている。無理強いする誘導はしないために一人一人のサインを見逃さないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため食事以外にも飲水を進めたり散歩や体操を実施している。また排泄チェックシートを活用し、1人ひとりの排泄パターンを把握し家族や主治医と相談しながら適切な対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、ご本人の希望や体調に沿うように時間・曜日は柔軟な対応に心がけている。また湯の温度も希望に沿うように配慮し、季節に応じてゆず湯にしたり楽しんでもらう工夫をしている。	3日に1回は必ず入浴が出来るよう支援されている。体調不良で入浴できない人には清拭を行ない、四季折々の楽しみとして柚子湯や菖蒲湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や今までの生活リズムを大切にしてお一人ひとりに沿った睡眠時間や休憩時間がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は看護師が行っているが介護職員は1人ひとりの内服情報を理解把握し、副作用や症状の変化は随意時、看護師に報告されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「生きる喜び」を持ち日々楽しく暮らせるよう、一人ひとりのできる事を見つけて一緒に家事・レクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の移り変わりを身体で感じ、楽しめるよう積極的に散歩に出かけ、月に1回程度は車での遠出を実施している。また家族の方との食事や買い物も積極的に行っていただくように勧めている。	利用者は花や人形等きれいなものを見ることを好み、花見や莓狩り、美術館や吊るし雛展などに出かけて季節を感じられるように支援している。天気が良い時には利用者の希望に合わせて周辺を散歩している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていないが買い物時には一緒に支払いを行うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら電話をかけたり受けたりしており、手紙においても年賀状を送り近況を伝えたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには季節の花を飾り、食堂・居間には天窓もあり、明るく開放的に過ごせるようにしている。	共有空間の居間や、廊下には季節感のある手作り作品が飾られている。居間の天窓の下に布を張り陽ざしの調整をし、テレビやCD等場面によって適切に切り替える等居心地良い空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの場所としてソファを置き自由に好きな場所で好きな方と過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、日頃より自宅で使っていたものを置いて頂き、居心地よく暮らして頂く事の大切さを、ご本人家族に伝え協力を得られるように努めている。	居室には馴染みの家具や仏壇が持ち込まれ、趣味に打ち込む利用者の写真や家族の写真等飾られている。各自の生活習慣に沿うようまた安心して暮らせるよう家族と相談して畳やカーペットを敷いた部屋も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手洗いと記してあったドアは「トイレ」と入居様が分かりやすい文字で変え、居室のドアは好きな花やもので飾ったりお一人ひとりの分かる・できる事を活かしながら自立した暮らしができるように工夫している。		